

五、農村型有線テレビがコミュニケーション 活性化と技術普及に及ぼす効果

— 岐阜県国府町の例 —

農林水産省農業研究センター 堀川 彰

工藤 清光

はじめに

近年、各種のニューメディアの発達に伴い、農山村地域においても、こうしたメディアを導入して地域の活性化を図ろうとする自治体が増えている。

しかし、このようにメディアが実際にどの程度地域の活性化や産業振興に役立っているかについての研究はあまり行われていない。

本報告は、日本で初めて農村型有線テレビの自主放送を行った岐阜県国府町を例にして、有線テレビがコミュニケーションの活性化と農業技術の普及にどの程度影響を与えているかを評価しようとするものである。

国府町の概要

岐阜県吉城郡国府町は、高山市の北に隣接する人口約八〇〇〇の町である。一四の集落があり、主たる産業は稲作を中心とする農業であるが、近年は第二次、第三次産業に従事する者の比率が増えている。国府町の有線テレビは、行政と住民とのコミュニケーションの活性化、農林業に関する情報の提供等の目的で設立され、昭和五三年から放送が開始された。有線テレビは九チャンネルで構成され、そ

の内一チャンネルが自主放送（KHK-TV）であり、広報の伝達や見近なニュースの提供等に使われている。現在加入率は全世帯の九七％に上っている。

調査の方法

本調査は、昭和六三年一月に、町役場から各集落の区長を通して、調査表を全戸に配布し、その逆のルートで回収を行った。回収率は九一・八％であった。

調査項目は大きく二つに分かれ、前半は、全ての回答者が回答するもので、回答者の属性や、国府町の自主放送に関する質問である。後半は、農家の回答者のみが回答する質問で、栽培している作物や、採用した農業技術等の農業に関する質問で構成されていた。

結果と考察

回答者の約2/3が週に二日以上自主放送を見ており、約七割の人が「町のニュース」というコーナーをできるだけ見るようにしている」と回答している。自主放送についての評価では、「町内の出来事がよくわかる」とする者が回答者の七割を占め、次いで、「衛星放送がみられる」「画像がきれいだ」などが評価されている。

有線テレビの自主放送の視聴者の特性を見ると、年齢が上がるにつれて自主放送をよく見る人の割合が増え、よく見る人ほど自主放送の中でも町内の出来事を重要であると考えている。（あまり見ない層は衛星放送を重視している。）よく見る人はまた、日常の会話においても番組の内容を話題にすることが多いことが示された。

全体的に見て、視聴者が自主放送に求めているのは主として身近

なニュースや各種の行事の報道であり、また、番組制作者側もこうしたニーズに応えているように思われる。しかし、こうしたことがコミュニティの活性化に結び付くには、コミュニケーションの問題、さらには自治組織の対応が残されている。

農業技術の普及に関しては、回答した農家の内で有線テレビの自主放送を農業技術の情報源にしていると回答した人は約七%に過ぎず、(ちなみに最も多く利用されているのは農協の資料で、約三割の人が利用していると回答した)あまり有効な情報源とはなっていないことが示された。また、自主放送で紹介された具体的な農業技術二例(粉衣法による水稻の種子消毒とスイートコーンの一品種であるピーターコーン)についても、自主放送によってこれらを知ったり、採用に当たって自主放送の影響を受けたと回答した人は極く少数であって、新技術の普及に及ぼす効果は少ないことが示唆される。

有線テレビの自主放送を農業技術の情報源にしていると回答した人は、農業本業農家よりも二兼農家により多いことや、自主放送の農業番組に最も期待されているのが時期に合わせた栽培指導等であることなどから考えて、現時点では、有線テレビの自主放送の農業番組は、新技術の普及を促進するというよりは、二兼農家を主な対象として、栽培のポイントを時期に合わせて放送する、いわばテレビ版の栽培歴といった性格を有していると考えられる。

しかしながら、最新の農業技術に関する情報を自主放送の農業番組に期待している農家も、農業本業農家を中心に少なからず存在しており、農業番組の全国的ネットワーク等でこうした要望に応える体制を整えば、有線テレビは新技術の普及において、有効なメディアとなり得る可能性も示唆されている。